

## 第3学年 学級活動 活動内容（2）学習指導案

日時 10月16日(木) 6校時  
学級 第3学年2組(29名)  
指導者 担任 大沢 卓美  
養護教諭 上野 弘子

- 1 題材名 「豊かな食生活」～食生活における五感と心について～  
学級活動 活動内容（2）日常生活や学習への適応及び健康安全  
（キ）食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

### 2 題材設定の理由

「食」は生きていくうえで必要不可欠なものであり、「見る・触る・匂いをかぐ・音を聞く・味わう」という五感を刺激する活動である。また、旬の食材を使った手料理のおいしさを味わい、家族みんなで食卓を囲みながら会話をする喜びも与えてくれる。子どもたちにとってこのような「食」の経験は、五感を磨き、食べ物を味わう感性を養うことにつながる。さらに「感じたことを表現する」「自分と他者では感じ方が異なる」ことを学べる食生活が繰り返されることで、コミュニケーション能力が養われ「他者理解」にもつながる。

しかしながら、現代社会においては外食産業の発展やライフスタイルの変化により、このような時間をもつ機会が少なくなり、子どもたちから五感を磨く機会が失われつつある。

そこで、このような時代だからこそ、豊かな食生活を送るために必要なことについて関心を高めたいと考えた。子どもたちは食事を摂ることの重要性には気付いているものの、五感を働かせて食事を楽しむという感覚はまだもち合わせていない。ゆえに、味覚について正しく理解し、五感を働かせることで感じ取ることのできる新たな味わいを楽しめるようになってほしい。また、おいしさは五感だけでなく食事環境や心の状況にも大きく影響していることにも気付かせたい。本題材を通して食についての関心を高め、自らの食生活を振り返り、これからの食生活がより豊かなものになるよう本題材を設定した。

### 3 他教科等との関連

体育科（保健領域） 「毎日の生活と健康」  
総合的な学習の時間 「サツマイモ博士になろう」

### 4 研究主題との関連

- (1) 学級活動（食育）での目指す児童像

【心】互いの違いやよさを理解し、よりよい関わりができる子 【体】自らの生活を見つめ、よりよい食生活を実践しようとする子
--

- (2) 研究主題（児童像）に迫るための手立て

#### 【心】

- 互いを理解し、よりよい関わりができるようにするために小グループを活用

一人一人が自分の考えをもち、話し合い活動に積極的に参加できるよう、話し合い活動の場面で小グループを活用することとした。話し合い活動を通して、互いの考えのよさや自分との違いに気づき、考えを深めるとともに「他者理解」につながると考える。

- 互いを理解し、よりよい関わりができるようにするためにブレスト会議を活用

発達段階を考えると、自分本位の考えから少しずつ回りが見え、他人の意見を尊重できるようになる段階ではあるが、話し合いの場面を見る限り、まだまだ友達の意見を否定している場面が少なくない。そこで、互いの考えを尊重し合いながら話し合うことの良さを実感できるよう、否定せずに「いいね」と受け止められることの心地よさを体験することができるブレスト会議を用いることとした。

#### 【体】

- よりよい食生活の実践をするために試食活動を導入

今自分たちが考えたことや学習したことを意識して、実感を伴った体験につながるよう、試食活動を行うこととした。また、食事環境の大切さに気付けるよう、テーブルクロスや花を用意することとした。

- 子どもたちの学習がより深まるようにするために養護教諭と互いの専門性を生かして連携

子どもたちの学習がより深まるよう養護教諭と連携し、専門性を生かして授業を展開することとした。

6 本時の学習（1 / 1 時間）

(1) ねらい

- ・食事をよりおいしく味わうための工夫について主体的に考えようとしている。
- ・五感の働きや心の在り方に興味をもち、今後の生活に生かそうとしている。

(2) 展開

児童の活動	主な発問及び児童の反応	○指導上の留意点・支援 ●評価
1 今までの食事の経験を思い出す	<p>今までに食事をしている「おいしいな」「しあわせだな」と感じた時はどんな時ですか。</p> <p>C 家族と一緒に食事をしている時 C 自分が好きなものを食べている時 C 遠足のお弁当を食べている時</p>	○楽しい食事の経験を想起できるよう、写真などを提示する。
2 本時の学習課題と流れを知る	<p>自ら食事をよりおいしく味わうためには、どうしたらよいか考えて食事をしよう。</p>	○後半、実際に食べる活動があることを示し本時の期待感をもたせるようにする。
3 食事をよりおいしく感じながら食べる工夫について今までの経験をもとに話し合う	<p>プレスト会議で自ら食事をよりおいしく食べる工夫について食前・食事中・食後に分けて考えましょう。</p> <p>食前 C 身の回りをきれいにする。 C 手を洗う。 C 静かに食事を待つ。</p> <p>食事中 C 楽しく食事をする。 C よく噛んで味わう。 C マナーを守って食べる</p> <p>食後 C 歯をみがく。 C 少し体を休める。</p> <p>プレスト会議（小グループでの話し合い活動）のルール ○友達のアイディアは絶対に否定しない。 ・「いいね」「そうだね」と肯定する。（否定しない話し合い） ・「いいね、付け加えて〇〇はどう？」（付け加えのアイディア） ・「そうだね、こんなのはどう？」（他のアイディア） ○アイディアを出したらその人が書く。 ○似ている意見お近くに書いていく。 ○アイディアを広げる時間とアイディアを絞る時間を確保する。</p>	<p>○アイディアが分類できるよう、前もって食前・食事中・食後に分けて考えることを示す。</p> <p>○プレスト会議のルールが明確になるよう提示する。</p> <p>○目標を10分で30の工夫に設定する。</p> <p>○友達の見解は肯定することを確認する。</p> <p>○一つのアイディアに注目して似たアイディアを広げたり、違うアイディアを促したりする声掛けをする。</p> <p>○他の班のアイディアを褒める。</p> <p>○たくさんの工夫が出たことを共に喜ぶ。</p> <p>●自ら食事をよりおいしく味わうための工夫について主体的に考えようとしている。</p>
4 五感を働かせて食事をする事、食事のおいしさと心は関係があることを知る。（養護教諭）	<p>養護教諭から食事をよりおいしく味わうための工夫について話を聞きましょう</p>	<p>○五感の働きについて1つずつを具体的に説明する。</p> <p>○「五感を働かせて食べてみたい」と関心が高まるよう、挿絵や映像などを用いて分かりやすく説明する。</p> <p>○食事環境や心の在り方についてはすぐに実行できるよう具体的な場面絵を示して説明する。</p>
5 プレスト会議の内容と専門家の話をもとに、どのように食事をするかまとめる。	<p>プレスト会議の結果と養護教諭の話を参考によりおいしく味わうための食事の仕方についてまとめましょう。</p>	<p>○プレスト会議で出した工夫の中から各自が最も良いと思うものに印を付け、グループ全員で意識できるようにする。</p> <p>○答えは1つではなく、人それぞれ重要だと思ふことは違うことに気付くよう補足する。</p>
6 まとめた方法で食事をする	<p>グループでまとめた食べ方で、食前、食事中、食後を意識して食事をしてみましょう。</p>	<p>○テーブルクロスと花を用意し、いつもと違う環境で食べ、その重要性に気付くようにする。</p> <p>○食べながら五感で感じたことを付箋にメモをする。</p>
7 学習を振り返り、これからの食生活について考える。	<p>今日の学習を振り返って、これから先、食事をよりおいしく食べるためにできることを考えワークシートに書きましょう</p> <p>C 五感を意識して食事をするようにしたい。 C 家族そろって食事をする時間がほしい。 C 身の回りを整理して食事をしたい。</p>	●五感の働きや心の在り方に興味をもち、今後の食生活に生かそうとしている。（ワークシート）

